

★安心安全な学校方向性ニュース(生徒のみなさまへ)

●熱中症対策

水分補給は運動前に！！

運動中や運動後の水分補給も大事ですが、熱中症を発症してからでは、身体が水分を吸収できない可能性があります。運動前の十分な水分補給をしましょう。

【ドアの隙間から見える景色】

今年度、校長室という分不相応な広い部屋を与えていただき、おかげで、文章を考えるときなど集中して仕事ができるで大変ありがたいです。校長室には歴代の校長先生方のお写真が並び、それだけでも背筋が伸びるのですが、なかでも私が大変尊敬する先生のお写真があるのが何より私に勇気を下さっています。その先生とは若い頃に、私が学級担任その先生は教頭先生として、同じ学校で仕事をさせていただきました。たびたび叱っていただいたのですが、同時に誰よりも私の頑張っている部分を認めて褒めていただきました。今はもうお亡くなりになられて、叱っていただくこともできないのですが、校長室の上の方から毎日励まされているようで、私の頑張る起爆剤になっています。私のような出来の悪い教師でも褒めてもらえたことで頑張れるのですから、やっぱり、生徒のみなさんの良いところを一つでも発見して褒めていくのが何よりも大事な私の仕事なのかなと思っています。

ところでこの校長室、文章を考えるときなどは集中できてよいのですが、職員室からドアひとつ離れていて、生徒の教室からも離れていて、ときどき孤独に感じることもあります。今は冷房の関係で閉じていることも多いのですが、少し前までは校長室のドアを少し開けていました。そうすると、ときどき前を通った生徒のみなさんが、中をのぞいてペコッと挨拶してくれたり、手を振ってくれたりします。あたたかいみなさんの心が、さびしがり屋の私の心を元気にしてくれます。少し開いたドアの隙間からそよ風が入ってきたように思います。

先生方の頑張りにも力をもらっています。教頭先生の仕事の量の多さは去年までやっていただけによくわかっています。学校中のありとあらゆることが教頭先生のところに怒涛の如く押し寄せるのですが、生徒や保護者や先生のために熱心に働いてくれています。他の先生方も見えない部分ですごく頑張ってくれています。みんなが帰った後の教室やトイレの消毒作業は、今や日常的な景色になりつつあります。グラウンドでは、炎天下体育の先生が固まった砂場の砂をスコップで掘り返し、部活の先生は草むしりをして安全で楽しい部活のために汗を流して下さっています。

そう考えたら、この西中学校は互いの励ましあうエネルギーで動いている大きな機械なのかもしれませんね。

校長室の黒板には、かわいいカタツムリの絵が付いた手製のカレンダーが張られています。かがやき学級のみなさんからのプレゼントです。この間は同じくかがやき学級の人から、手製のマスクケースを頂きました。父の日を忘れていた我が息子二人に是非見せてやろうと思います。(笑)

みなさんも、来客中でないときにはぜひとも校長室に顔を出してください。自慢話でもOK、悩みの相談でもOK、笑顔だけでももちろんOKです。

★西中プライド(生徒のみなさんに望むこと)

●校長ミッション第3弾

「新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、PCR検査をもっと増やすべきか？」

A君

もっとドライブスルーのようなPCR検査を増やせばいいと思う。

メリット・・・早期発見・拡大防止につながる

デメリット・・・医者とかナースの人手が足りない

医者とかナースに感染する可能性⊕

Bさん

もっと増やすべき

理由・・・私の知り合いが1週間微熱だったけどPCR検査を受けられる条件ではなかったの
で、ずっと不安だったらしく、そんな人が増えてほしくない所以我は増やすべきだと思いま
した。

メリット・・・不安になる人が少なくなる

デメリット・・・お金がかかる

C君

増やすべき

理由・・・多くの人感染者と無感染者との区別ができる

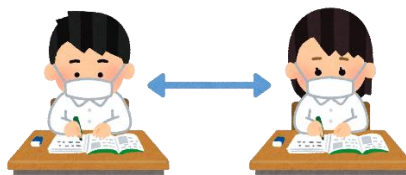
D君

PCR検査は増やすべきだと思う

理由・・・コロナウイルスに感染している人の正確な数字がわかるから

いいところ・・・正確な人数がわかることにより、危機感を持つ人が増えるというところ

わるいところ・・・重体の人から軽症の人で病院がうまり、医療崩壊が起きる可能性があがる
検査に来た人同士で感染拡大してしまう可能性が出てくる



●校長ミッション第4弾

「もし、あなたがスーパーの店長なら、あなたの店で、どんな感染拡大防止対策をとりますか？ 思いつくままに、箇条書きで答えて下さい」

A 君

- ・おつりは手渡ししない
- ・レジに透明のカーテンをつける
- ・かごとカートを毎日消毒する

B さん

- ・営業時間を短くする
- ・消毒液で消毒をしてもらう
- ・スーパーに入れる人を制限する

C 君

- ・人数制限
- ・手袋(客・店員)
- ・距離(人と人との)2m
- ・しゃべらない(店員の人)
- ・マスクをつける(客・店員)

D 君

- ・店の入り口に店員を配置し手を消毒することを強くお願いする

E 君

絵に描いてくれました。文章で説明すると・・・

消毒液を出入り口付近にセットし、洗ったかどうかをはかれる機械で確認する

お会計は一人で
お願いします



●校長ミッション第5弾

「家庭でできる感染防止対策についてあなたのアイデアを考えてみて下さい。できるだけたくさんアイデアを、箇条書きで答えて下さい」

A 君

- ・ドアノブに触らないように、いつもドアを開けておく
- ・玄関やトイレなどのドアノブをいつもアルコールでふく

B さん

- ・1m家族と離れる
- ・食するときには食べる前に消毒
- ・机をふく

C 君

- ・手洗い・うがい・顔を洗う
- ・服も洗濯する
- ・できるだけ外に出ない

D 君

- ・家に帰ったら必ず消毒・手洗い・うがいをする



★校長ミッション第6弾

種子島にやってきたポルトガル人は、どうやって日本人と会話したでしょうか？

ときは天文十二年(1543年)の8月25日。一隻の中国船(実は日本の海賊「倭寇」だったともいわれています)が中国に向けての航海の途中、東シナ海で嵐に巻き込まれて、日本の、当時の薩摩藩の一部であった種子島に漂着しました。その船には3人のポルトガルの商人も乗っていました。

種子島の住民からすると、突如として中国船が現れて、さらにその乗組員の中にはポルトガル人という当時の日本人からしたら初めて見るヨーロッパ人がいて、さぞ驚いたことだろうと思います。

さて、そこで先ほどの「校長ミッション第6弾」の答えですが、
中国語での筆談(つまり漢字を利用した)によってコミュニケーションしたようです。

話をしてみると、このポルトガル人は商人であり、さらに未知の武器を持っていることがわかりました。

この未知の武器は弓では届かないところでも余裕で届き、さらにいとも容易く、相手を倒すことができるなど魅力的な武器で、これを聞いた当時の種子島の領主である種子島時堯はこの未知の武器を二挺で2000両(2億円)という莫大な額で買収したそうです。

このようにして日本人は鉄砲に出会ったのでした。
こうして買って見た鉄砲ですが、たとえ便利といえども二挺だけではあまり役には立ちません。
そこで種子島時堯は地元の刀の鍛冶屋に対して買った鉄砲を作ってみてくれという依頼を出します。
しかし、鍛冶屋からしたら鉄砲という新しい武器なんて見たことも聞いたこともありません。

さらに鉄砲には弾を撃った時に着く「すす」を取り除くためにネジを使っていましたが、当時の日本にはネジはありませんでした。

しかし、鍛冶屋は悪戦苦闘しながらネジの仕組みを完全理解し、わずか一年で鉄砲の国産化に成功します。鍛冶屋の努力の賜物でした。

ちなみに、鉄砲は種子島とも言われますが、これは初めて国産化に成功した種子島の土地にあやかっ
てつけられた名前です。

その後全国各地に伝わって大量に国産化された鉄砲は戦国時代の戦い方を大きく変えました。

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

在アラブ首長国連邦日本国大使館・在ドバイ日本国領事館

海外旅行や海外駐在などを行う際に、大変お世話になるのが大使館や領事館です。海外の紛争や病気の情報の発信や海外で事件や事故に巻き込まれたときやパスポートの紛失などの大小たくさんのトラブルの対処をして、現地にいる日本人を助けて下さいます。

では大使館と領事館の違いは何でしょうか？

大使館は、外交使節団が相手国と交渉や連絡を行うための「外交」を目的とした施設です。

これに対して領事館は外交を目的とした施設ではなく、「自国民の保護」を目的とした施設です。領事館では主に、パスポート・査証の発行、日本人(日本企業)の行政手続き、通商問題の援助などのサービスを行っています。

海外旅行などの際には、我が家はお金以上にパスポートの紛失に気を使っていました。お金は、日本から送金してもらおうなど、どうにか対処する方法もあるのですが、パスポートの紛失とな

ると、捜査や再発行にかなりの期間がかかる可能性があります。そのため、再発行できるまで出国できなかつたり、仕事上も大変困った事態になる可能性があります。

海外旅行の際の、我が家の対策は、お金は、家族みんなで衣服のあちこちのポケットやホテルのフロントのセーフティーボックスや部屋の鍵のかかるカバンなどに小分けして持っておくようにしていました。

パスポートは、基本ホテルのフロントのセーフティーボックスに預けるようにしていました。ただし、買い物の際や劇場などの入場の際に、ときどき、パスポートの提示を求められるので、その時には持って出ました。

基本、我が家の海外旅行は、スーツケースの中に紙おむつとインスタントラーメンと缶詰が詰まっています、食事に関してはレストランで食べることを少なくして、スーパーマーケットで買い出ししてすませることが多いという、超貧乏旅だったのですが、宿泊するホテルだけは、安心して、パスポートやお金を預けられるように中級クラス以上のものを選びました。一時期、日本人のバックパッカー（バックひとつで身軽に旅行する人）が泥棒に狙われるということが続きました。なぜかというと、バックパッカーは安いホテルに泊まっているので、大事なものをフロントに預けにくく、バックの中にパスポートや全財産を入れていて「見た目はラフでも日本人のバックパッカーのカバンの中には大金やパスポートが入っているぞ」といううわさが流れたためです。日本のパスポートはものすごく信頼されていて、世界のパスポートの中でも最も多くの国に入国することが許されているパスポートなのです。そのため、裏では、日本のパスポートが高価で売り買いされているのです。つまり海外に行くときには、「十分な自衛」と「大使館や領事館による助け」が大事になるのです。

大使館には、「特命全権大使」という立場の方がおられました。「特命全権大使」とは、大辞林によると【外交使節の第一階級。外国に駐在し、自国元首の名誉と威厳を代表し、駐在大使館の長として外交交渉および自国民の保護にあたる。全権大使。大使。】ということでした。全権委任ということは、いざというとき日本政府に変わって他の国と交渉する権利を持っているというすごい立場の人です。

我々は、閣下という使いなれない言葉を、大使のお名前の後ろに付けてお呼びするように指導されていました。生まれて初めて人を呼ぶときに閣下という言葉を使ったので、緊張したのを覚えています。

一度だけ、大使公邸（大使の住む家）にご招待いただきました。マンションのペントハウスといわれる最上階とその下の階の2フロアーに住んでおられたのですが、大使公邸用の専用直通エレベーターがあり、エレベーターの前には機関銃を持った警備の人がいました。

ディナーをごちそうになったのですが、全ての食器に菊の紋章がついていて、大使専属の日本人の料理長による、豪華なフランス料理のフルコースを頂きました。おいしかったのですが、「味」より「マナーを間違わないか」という緊張のほうが大きかったのを覚えています。